

❖□■□■□❖□■□■□■□❖□■□■□■□❖□■□■□■□❖
メールニュース10月号 理研バイオリソースセンター実験植物開発室
❖□■□■□❖□■□■□■□❖□■□■□■□❖□■□■□■□❖

このメールは、最近リソースの請求をされた方、技術研修に参加された方、及び展示会等にて実験植物開発室からのメールニュースを希望された方を対象に送信しています。配信不要の方はお手数ですが、 plant@brc.riken.jp までご連絡ください。

---● ミナトカモジグサ (*Brachypodium distachyon*)

完全長cDNAクローンの提供を始めました ●---

理化学研究所 環境資源科学研究センター (RIKEN CSRS) より寄託された単子葉の実験植物、ミナトカモジグサ Bd21 株 (標準系統) 完全長 cDNA クローンの提供を開始しました。ぜひご利用ください。

<http://epd.brc.riken.jp/archives/2269>

-----● バイオリソースの国際会議が開かれます ●-----

アジア地域のバイオリソース関係者間の交流を図るため、The 5th ANRRC International Meeting (ANRRC 2013、10月30日~11/1日、湘南国際村) が開催されます。理研BRCでは会議を主催し、国際間の連携体制構築を図ります。ANRRCと本会議にご興味のある方は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.shonan-village.co.jp/anrrc2013/index.htm>

-----● テクニカルサポート (No. 6) : 植物培養細胞の維持について ●-----

植物培養細胞のプロトコルシリーズ第2回は、入手した細胞株の培養中に気を付けていただくポイントについて説明します。

1. 植物培養細胞はたいへんデリケートなリソースです。培地へ移植する際のストレスなどにより急に変色して増殖が停止し、最悪の場合には死滅することもあります。また移植する細胞量が不足しても、増殖速度は著しく低下します。新鮮培地に移植した後は増殖や色などに異常がないか、継続して観察してください。
2. カルスが褐変した場合、部分的であれば、変色していない部分を直ちに移植することによりレスキューできる可能性があります。懸濁培養細胞の増殖が悪くなった場合には、細胞密度が高まるまで植え継ぎの時期をずらすことも検討してください。
3. 万が一増殖が著しく悪くなったり細胞の褐変がおきたりした時には、回復が困難な場合がほとんどです。株分けした複数の系統を作成し、時期をずらしつつ別の場所で培養すれば全滅を防ぐことができますが、コストと時間がかかり実行は難しいと思います。そこで、問題がおきた場合には再分譲の請求をお薦めします。当室のスタッフは年間を通して細胞株の安定した維持に努めています。
4. 判断に困った場合には、お気軽に当室までご相談ください。その際、培養物全体の写真や細胞の顕微鏡写真を送っていただくと、状況の把握に役立ちますのでよろしくお願い致します。

リソースの寄託や提供に関わるご相談、ご質問は、お気軽に下記メールアドレスにお送りください。皆様のアクセスをお待ちしております。

❀*:・'° ❀° '・:*:.。❀.:*:*・'° ❀。.:*:.。.:*❀

理化学研究所バイオリソースセンター

実験植物開発室 提供係

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-1-1

TEL 029-836-9067/FAX 029-836-9053

MAIL plant@brc.riken.jp

HP <http://www.brc.riken.jp/lab/epd/>

❀*:・'° ❀° '・:*:.。❀.:*:*・'° ❀。.:*:.。.:*❀